

夢を目標に

青森市立筒井中学校
学校だより **第10号**
平成30年 12月6日
男子268名 女子250名
計518名
〒030-0945
青森市桜川八丁目15-1
文責：校長 岩田 靖

筒井市長選挙 実施！！（模擬選挙でした）



11月21日（水）青森市選挙管理委員会と連携した筒井市長選挙が実施されました。これは私（岩田）が会長を務める青森市中学校教育研究会社会科部会で各校持ち回りで実施しており、2年前に筒井中に決定していたものでした。

投票所のレイアウト、受付や立会人などは勿論、投票箱、開票マシンなどは本物と同じものを使用し、選挙公報を事前に読み、3人の候補者の演説を聞いて投票するという、実際の選挙と同じスタイルで行いました。

選挙権は18歳に引き下げられていますが、投票率の低さなどが問題となっています。選挙の仕組みや選挙に関わる事務などを学びながら、一票の大切さを感じてほしいと思っています。それにしても3名の選挙演説は本番さながらで、わくわくランドや筒井駅、スポーツ振興策などそれぞれの公約には生徒からは思わず、感心した声が出ていました。



身を乗り出して演説に聞き入っています



本物の投票用紙計算機（数十万円）や読取分類機（数百万円）投票台・投票箱などすべて実際の選挙で使われている本物だそうです。



投票用紙の交付係、名簿との照合を行います。



投票前の投票箱は中身を確認のためこういう状態で置かれています。



投票所一番乗りが投票箱を組み立て、鍵をかけます。



選挙長の宣言で投票、開票が始まります



いよいよ投票です



立会人が見守る中、1年～3年まで全員が投票しました。



開票作業の様子（左の写真）

各学級の代表がステージで開票作業に従事しました。生徒数が500人以上の模擬選挙は選挙管理委員会でも初めてのようで投票用紙計算機で総数を確認していました

先日実施された本物の青森市議会議員選挙の開票作業はカクヒログループスタジアム（青森市民体育館）で行われており、ケーブルテレビなどでは中継をしていました。生徒達にもあと数年で選挙権が与えられます。

平成30年度 青森地区万引き防止標語コンクール
優秀賞 成田 菜摘
取っちゃダメ 心のブレーキ 忘れるな

第14回 青森市学校図書館読書感想文コンクール
佳作 山内隆寛「かがみの孤城」から考える尊い命

平成30年度 中学生強化事業派遣
木村竜太（水泳） 田中優貴（卓球）

第11回全日本ユース（U-15）水球競技大会
野呂奏歌

第60回NHK杯青森県卓球選手権大会
第5位 田中優貴

学校雪捨て場の開放

今年も学校の校庭を雪捨て場として開放致します。スノーダンプ・そり等で運んだ雪に限ります。トラック、重機等での搬入は禁止です。

もうすぐお正月

お正月の元旦には昔から「年神様（としがみさま）」という新年の神様が、1年の幸福をもたらすために各家庭に降臨するとされています。

年神様は祖霊神であり、田の神、山の神でもあるため、子孫繁栄や五穀豊穡に深く関わり、人々に健康や幸福を授けるとされています。その年神様を迎え入れてお祝いし、たくさんの幸せを授けもらうために、様々な正月行事や風習が生まれました。



すす払い
門松
しめ縄
鏡餅
年越しそば
おせち

こうした日本文化をグローバル化（国際化する）社会において、外国の方に説明できるようになることが大事です。何にでもなぜという興味を持ってほしいものです。

校内に目を向けてみると



職員玄関にあるお花です。S先生が、毎回きれいに生けてくれています。助手は石戸博将君と上明戸美紗季さんと、春から秋までは毎日生徒玄関も清掃をしてくれました。秋には中庭の花を摘んで、校長室や廊下のお花も担当してくれています。普段何気なく、見ている中庭の薔薇もそれぞれの個性をもった様々な色があります。

花の脇に小さな紙があったので見てみると、とても良い言葉が添えられていました。

みんなちがって みんなでいい社会 ～模擬選挙に寄せて～

冬の薔薇は朝夕の寒暖差により、紅を帯びながら柔らかく黄色に咲いています。あちらこちらを向いている薔薇は、筒中生の個性を表現しています。白い山茶花は、「困難に打ち勝つ」「ひたむきな」心や筒井中の「誠実さ」を表しました。このように素敵で様々な個性をもった人たちが、絆を強めながら想いの輪を創り、柔軟な心で理想の筒中社会を結実させていく様を表現しました。

中庭の薔薇を使いました。

みんなちがって みんなでいい社会 ～模擬選挙に寄せて～

冬の薔薇は朝夕の寒暖差により、紅を帯びながら柔らかく黄色に咲いています。あちらこちらを向いている薔薇は、筒中生の多様で豊かな感性を表現しています。白い山茶花は、「困難に打ち勝つ」「ひたむきな」心や筒井中の「誠実さ」を表しました。

このように素敵で様々な感性をもった人たちが、絆を深めながら想いの輪を創り、柔軟な心で理想の筒中社会を結実させていく様を表現しました。

中庭の薔薇を使いました。

生徒作品展示中 ... 青森県総合社会教育センター ギャラリー「画伯のたまご」 県立図書館隣の建物で

12月3日～12月28日まで



1年

小野紗也夏	佐々木頌祐	八木橋 康	柳谷妃南	山田采佳	山田 暖	鎌田悠生	上田琉愛
川井陽詩	沢目文弥	杉山琉也	成田昇輝	今 優仁	櫻庭正渡	竹内つぐみ	成田菜摘
柿崎祐莉香	木谷美月	工藤柚姫	佐々木恢紘	成田妃那	西田真悠	山崎愛智花	

2年

木村竜太	戸田大翔	對島華音	棟方祐丞	佐藤飛元	中堀咲良	山本彩音	会津柊河
阿保和佳	阿保友唯	小笠原礼瑠	長内里緒	長濱ゆい	太田瑞樹	小野紗季	三枝すず
徳差歩弓							

本校の生徒の良さに絵画のセンスの良さがあげられます。先月に弘前市で開催された県中文連総合文化祭においても、筒井中の絵のレベルの高さが絶賛されていました。

2年4か月だけ存在した「筒井町」 「あおり歴史トリビア」第138号 2014年12月19日

社会科の教員をやっていると地域教材という地域を扱った教材で、地域を学ぶ、地域から学ぶ、地域を通して、市や県、国を考える等という学習があります。青森市にはアウガにある市民図書館の中に歴史資料室があり、中学校社会科の先生方はよくお世話になっています。そこが発信しているメールマガジン「あおり歴史トリビア」には青森市の歴史の様々な情報があり、「筒井町」というものもありましたので、一部を抜粋して紹介したいと思います。

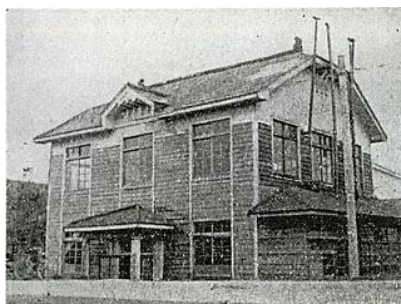
いわゆる「昭和の大合併」により、昭和30年（1955）1月1日に筒井・横内・東岳・高田が、そして同月15日には浜館・荒川が青森市と合併しました。また、同年3月1日には、新城・奥内・原別も合併し、この年、青森市域は大きく広がりました。この年に合併した上記9つの地域のうち、ひとつだけ「村」ではなく「町」だったところが筒井町でした。

筒井町は、明治22年（1889）に筒井村・浜田村・幸畑（こうばた）村・浦町村字奥野が合併して「筒井村」として成立しました。昭和初年にも青森市との合併話があったようですが、この時は決まりませんでした。

戦後、昭和27年4月に町制施行に関する議題が村議会で提案されました。その理由は、後述する『広報つつい』第2号によれば、第1に地方自治法改正の前に町制を施行し、その後に他村と合併し完全な自治の運営を図りたいこと、第2に戸数の激増で事業所や商店が増加、それによって住民の職業的形態も都市的に変化し、青森市に隣接するという地理的環境からも「町となるべき村の要件」に適合していることでした。これに対して、時期尚早であり村民の世論の喚起を待つべきとの反対意見も出ましたが、6月の村議会で施行が決定、8月の県議会の可決により、昭和27年8月31日、筒井町が誕生しました。（昭和22年に筒井村浜館村学校組合立筒井中学校として開校した本校ですが、途中で筒井町浜館村組合立筒井中学校となっていた時期がありました。）



町制施行決定を伝える



筒井町役場



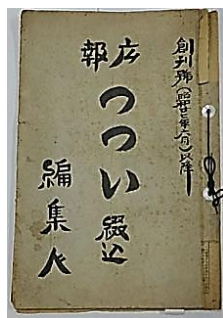
役場があった場所

やがて、翌28年10月に町村合併促進法が施行され、筒井町も他市町村との合併を考える必要に直面しました。『広報つつい』第7号、第8号によれば、当初は青森市よりも、浜館村・横内村との合併を優先に検討されたようです。

しかし、合意には至らず、最終的に青森市との合併が決定し、筒井町は青森市大字筒井となりました。

このように、「東津軽郡筒井町」は、昭和27年8月31日から昭和29年12月31日までの2年4か月間だけ存在したのでした。市史編さん室では、この短い期間に筒井町が発行した『広報つつい』を保管しています。これは、昭和27年6月から昭和29年12月までの間に出版された創刊号から9号までと、号外「筒井町の生ひたち」を「編集人」氏が綴ったもので、町制施行・合併に関わる町の動向や新しい地方自治についての情報を、町の人々に丁寧に伝えようとした編集人の熱意が感じられます。また、筒井町内の歴史に関するコラムや町内の写真もあり、地域の方の「地元愛」も伝わってくる資料です。

「あおり歴史トリビア」第138号 （2014年12月19日配信）



左は『広報つつい』綴込（市史編さん室蔵）、右は「筒井町の生ひたち」という資料です。現在の筒井交番の隣にある青森市中央市民センター一筒井分館には筒井町長や筒井村長の写真が掲額されています。



12月4日、町議会ではありませんが、これからの小中学校の連携の在り方を構築する筒井中学校区連携協議会が、地域、学校、PTAの各代表者により開催されました。今後、先生方は「学びの支援部会」「心の支援部会」「育ちの支援部会」に分かれ、地域を巻き込んだ連携（児童生徒の成長を支援する活動）を行っていく予定です。

これからの連携を考えたり、情報交換する参会者の真剣に討議する様子を拝見して、ますます地域の柱となり、地域の役に立つ人材（人材）を作っていこうという気持ちにかられました。